こうげわくわく子ども探険隊Ⅱ

上毛町の将来を　担う子どもたちへ

夏休み期間中の4日間、町内小学校4、5、6年生を対象とした「こうげわくわく子ども探険隊Ⅱ」を社会福祉協議会と共同で開催しました。この探険隊は、町の自然環境や史跡、産業や地域福祉など各分野で活躍する地域の人たちと出会い、触れ合うことで、町の魅力や課題を考える機会を創出することを目的としています。

今年度の参加者は53名と昨年度を大きくを上回り、みんなで上毛町を探険しました。

1日目

知ってみよう

上毛町ってどんなとこ？

「自然」「史跡」「地域の人たち」など、上毛町のことを知り、自慢できるようになってもらいたい。

上毛町の各小学校から参加した子どもたち！同じ町に住む友だちとこれから4日間、わくわく探険がはじまります。自己紹介もどこか緊張してしまいます！

自己紹介ゲーム

7月29日(木)に探険隊の初日を迎え、子どもたちがげんきの杜に集まりました。南吉富小学校31名、西吉富小学校8名、友枝小学校10名、唐原小学校4名の参加で始まった探険隊ですが、初日は、始めて会った友だちと早く仲良くなれるように、レクレーションを行いました。

カードに生年月日を書き、4月生まれから順番に整列するゲームで、子どもたちは、友だちのカードを確認しながら自分の並ぶ場所を探しました。並び終わった後は、順番に自己紹介。まだ、緊張が解けない様子で、照れくさそうに全員が自己紹介を行いました。

フライングディスク競技「アキュラシー」

昨年も大好評だったフライングディスク競技。子どもたちは身障会の方々と一緒に、得点を競い合いました。「おしい！」「がんばれー」など子どもたちの声援で会場は大変盛り上がりました。

アキュラシーは直径1.7mの輪にフライングディスクを投げて得点を競い合うスポーツです。このスポーツの第一人者は、上毛町身体障害者福祉会の皆さん。会長の竹下さんから投げ方を教わった後、一緒に競技を行いました。子どもたちのフライングディスクが輪を通るたびに、チームメイトから拍手や歓声が沸き、この頃には、みんなの緊張も解けたようでした。

すみれ会の美味しいカレーライス

昼食はボランティアグループのすみれ会の皆さんが、子どもたちにカレーライスを作ってくれました。あまりの美味しさに、おかわりを3杯もした筒井俊太朗君。すみれ会の皆さんも、おかわりをしてくれる子どもたちの姿にとてもうれしそうでした。

上毛の宝と地域福祉

上毛町には地域づくり活動で活躍している団体が29団体あります。子どもたちにも、地域でがんばっている人たちを知ってもらおうと観光ガイドブック「上毛の宝」をもとに説明しました。

また、子どもたちに「福祉」について考えてもらうため、生きがい対策のためのサロン活動など、町内で行われている地域福祉活動について紹介しました。

2日目

見てみよう

上毛町の魅力を探険！

「上毛町にある工場や施設、史跡を探険し、町の産業や福祉、文化について学習し、町の魅力や課題を感じてもらいたい。」

安雲拓心苑の職員さんから施設の説明をしてもらいました。トイレやお風呂など利用者の方が安心して使えるように工夫されていました。

特別養護老人ホーム「安雲拓心苑」の探険

8月4日(水)は町内各施設や史跡を探険するスケジュール。最初に訪れた安雲拓心苑では、老人ホーム、グループホーム、デイサービスセンターに分かれて、施設見学と施設利用者との触れ合い体験を行いました。

上手に歩けない利用者の方を笑顔でサポートする職員の姿や施設生活を意識させないための数々の工夫など、施設見学で感じたことを子どもたちはメモ帳に書き留めていました。また、施設利用者と一緒に輪投げや折り紙をしていると、「孫がたくさん来てくれたみたいでうれしい」と喜ばれ、自分たちと交流するだけで高齢者の方は、元気になれると感じていたようでした。

松尾山の探険

修験道の山として知られる松尾山の歴史や、今も残る史跡を見学するために、松尾山を探険しました。昨年度復元された石畳を歩き、三社神社がある頂上を目指した子どもたちは、汗を拭いながら散策路を登っていきました。途中にある県指定有形民俗文化財「護摩壇」や頂上にある「松尾山の宝塔」については、文化財係の佐藤さんから説明を受け、子どもたちは興味深く聞いていました。

護摩壇の説明を聞いて、松尾山の修験道文化を学ぶ探険隊の子どもたち。

ユニシア九州(株)の探険

上毛町に立地する工場の多くは、自動車部品を製造する企業です。その一つであるユニシア九州(株)の工場見学を行い、町の産業について学びました。工場見学では、子どもたちの質問が最も多く、案内役の松下さんが悩む一面もありましたが、製造部から業務部まで全ての部署から責任者が出席され、子どもたちの質問に分かりやすく答えていただきました。